



RIKEN KEIKI

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

2026年8月

理研計器株式会社

証券コード：7734

免責事項

本資料に記載されている当社の将来の業績に関する見通しは、現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見込みです。経済動向や市場需要等の不確実性を含んでいることから実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性があります。



経営理念

理研計器グループは

「人々が**安心**して**働**ける**環境**づくり」

を永久のテーマとして社会の発展に貢献します。

沿革

1939

理化学研究所の研究成果を「光波干渉式ガス検定器」として商用化する企業として設立

1961

東京証券取引所第二部に上場

1972

(株)理研計器奈良製作所設立

1995

東京証券取引所第一部に上場

2009

中国子会社として理研計器商貿（上海）有限公司設立

2015

開発センター開設
(埼玉県春日部市)



2017

北米RKI子会社化

2018

シンガポールRKAP子会社化

2019

可搬型ガス検知器「GX-3R/
GX-3R Pro」発売



2020

生産センター竣工
(埼玉県春日部市)



2025

半導体工場向け定置型ガス
検知部「GD-81D」発売



2026

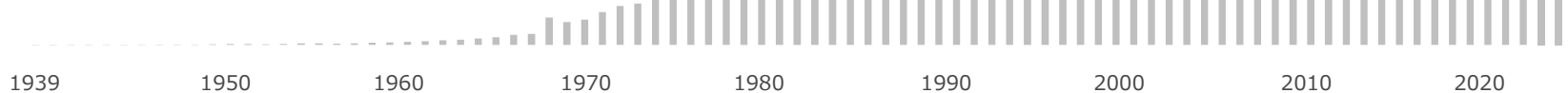
検知テープ式多点毒性ガス検
知システム「FPM-80A」発売



2026年3月期売上

552億円

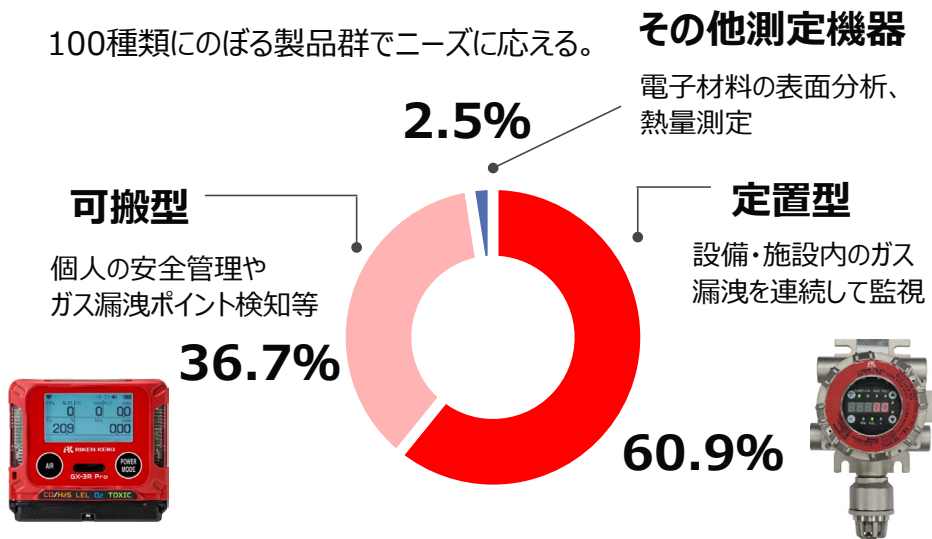
■ 売上高の推移



当社製品(26年3月期通期実績)

■機種別売上高の割合

100種類にのぼる製品群でニーズに応える。



■業種別売上高の割合

● その他

(機械・鉄鋼・自動車含む)

29.0%

● 船舶

5.7%

● ガス

13.2%

● 電気・半導体

42.2%

● 石油化学

9.9%

※各種数値は端数を四捨五入しているため構成比の合計は100%にならない場合があります。

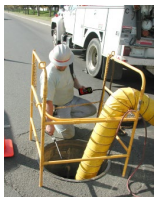
■当社製品の用途

人々が安心して働ける環境づくりに貢献。



● 毒性ガスの監視

半導体工場、液晶工場、石油精製、
石油化学、化学工場等



● 酸欠事故防止

下水道処理場、マンホール作業など地下
作業、製紙・紙パルプ工場、製鉄工場等



● ガス爆発防止

石油化学工場、LNG・LPG受入れ基地、
タンカー、印刷工場等



● その他

電子材料の表面分析、
X線による物質分析等



決算の概要

2027年3月期 1Q

業績の概要

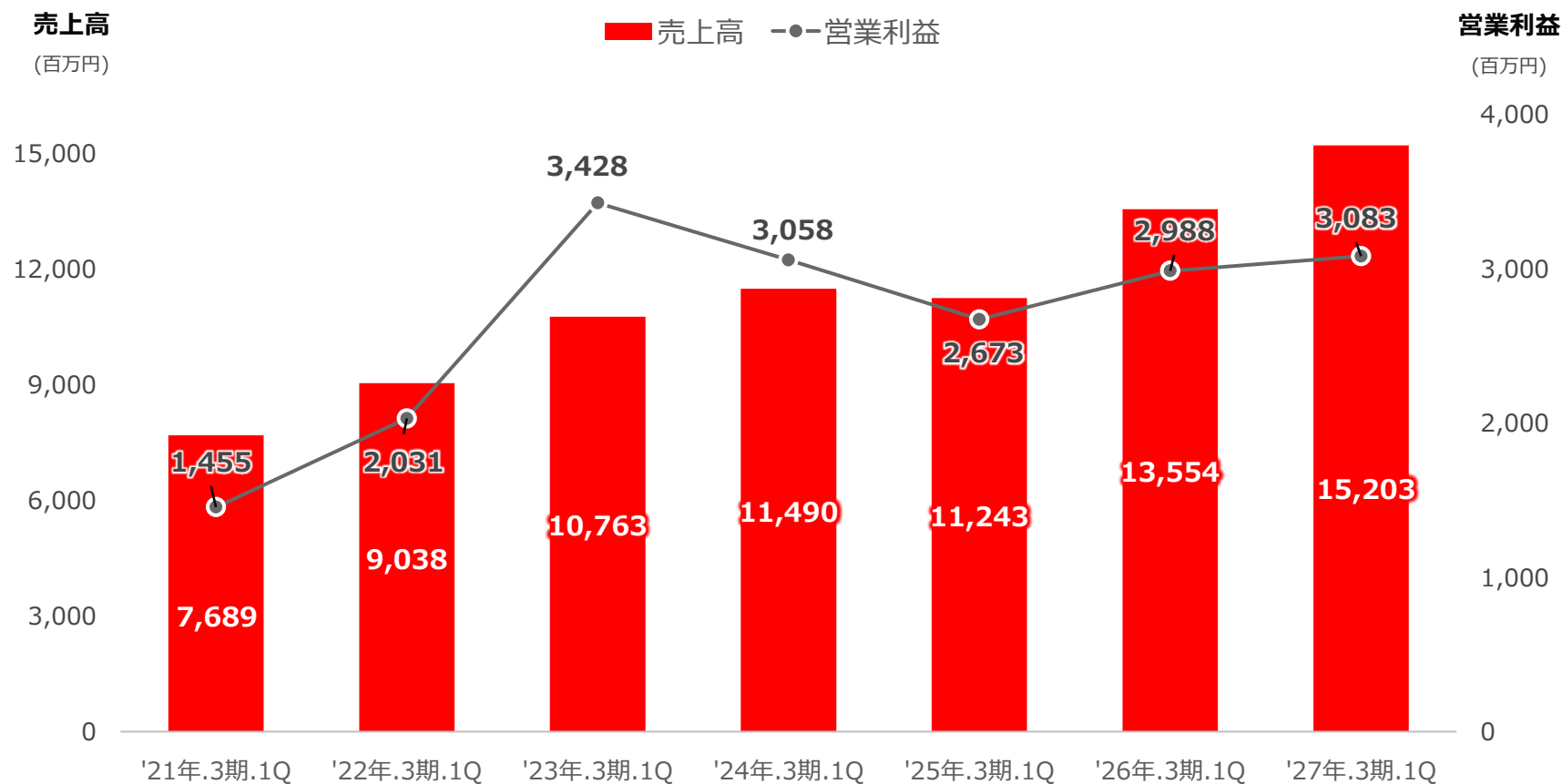
- アジア地域と北米地域を中心とした海外売上高が増加したことにより売上高は前期比で12.2%増加
- 人件費の高騰、新製品の販売における価格戦略が重なったことにより原価が増加し、営業利益率は1.7ポイント低下

(百万円)

	2026年3月期	2027年3月期			
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期予想	進捗率
売上高	13,554	15,203	112.2%	60,000	25.3%
営業利益	2,988	3,083	103.2%	12,700	24.3%
営業利益率	22.0%	20.3%	-	21.2%	-
経常利益	2,971	3,431	115.5%	13,000	26.4%
当期純利益	2,138	2,415	113.0%	9,600	25.2%
1株当たり当期純利益(円)	46.55	53.14	114.2%	211.19	25.2%
1株当たり配当金(円)	-	-	-	-	-

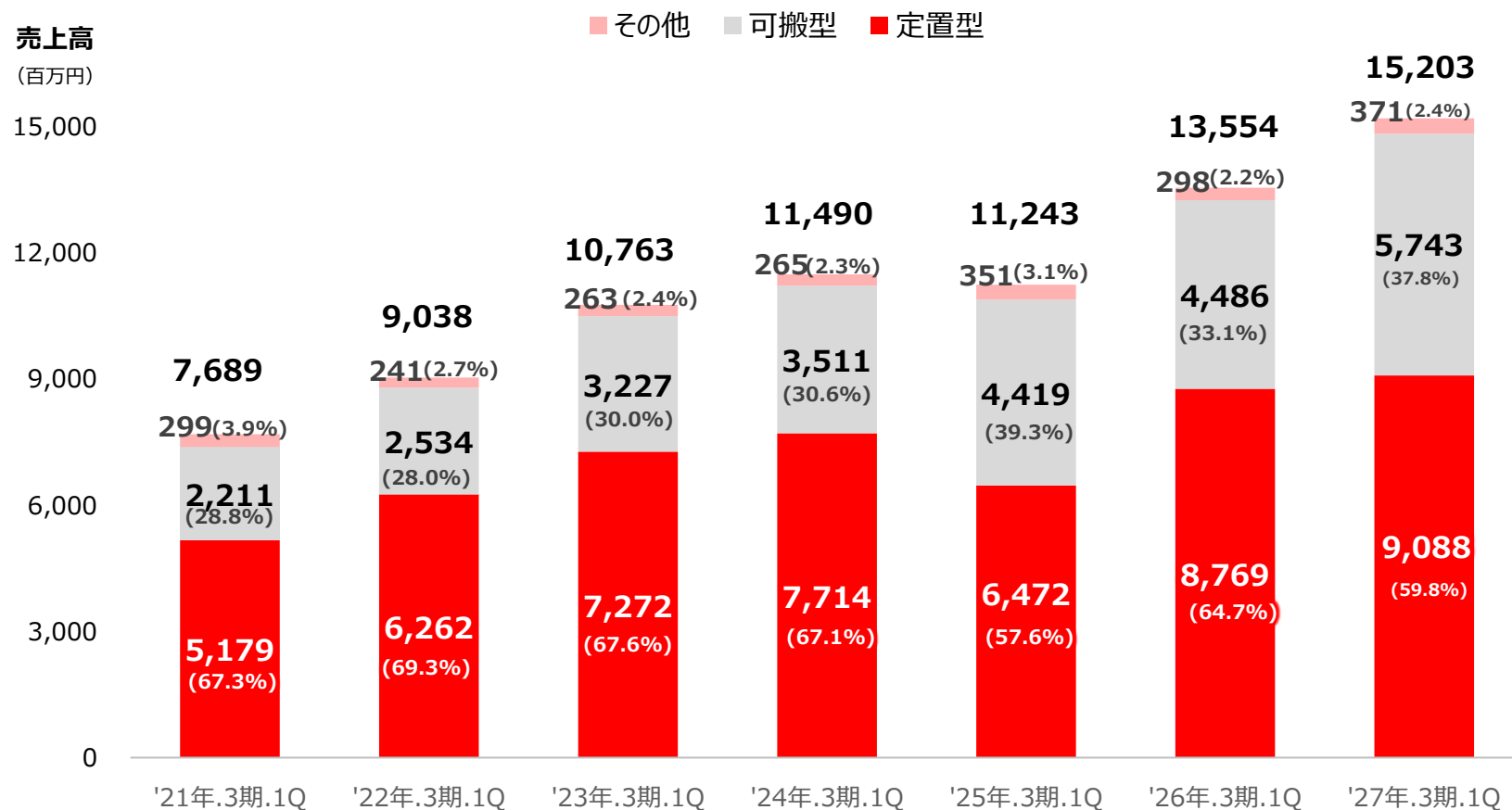
売上高および損益推移 (1Q)

- アジア地域および北米向けの販売が伸長し、売上高は前年同期比で増加
- 前述のとおり、人件費の高騰、新製品の価格戦略により営業利益は横ばい



機種別売上高の状況（1Q）

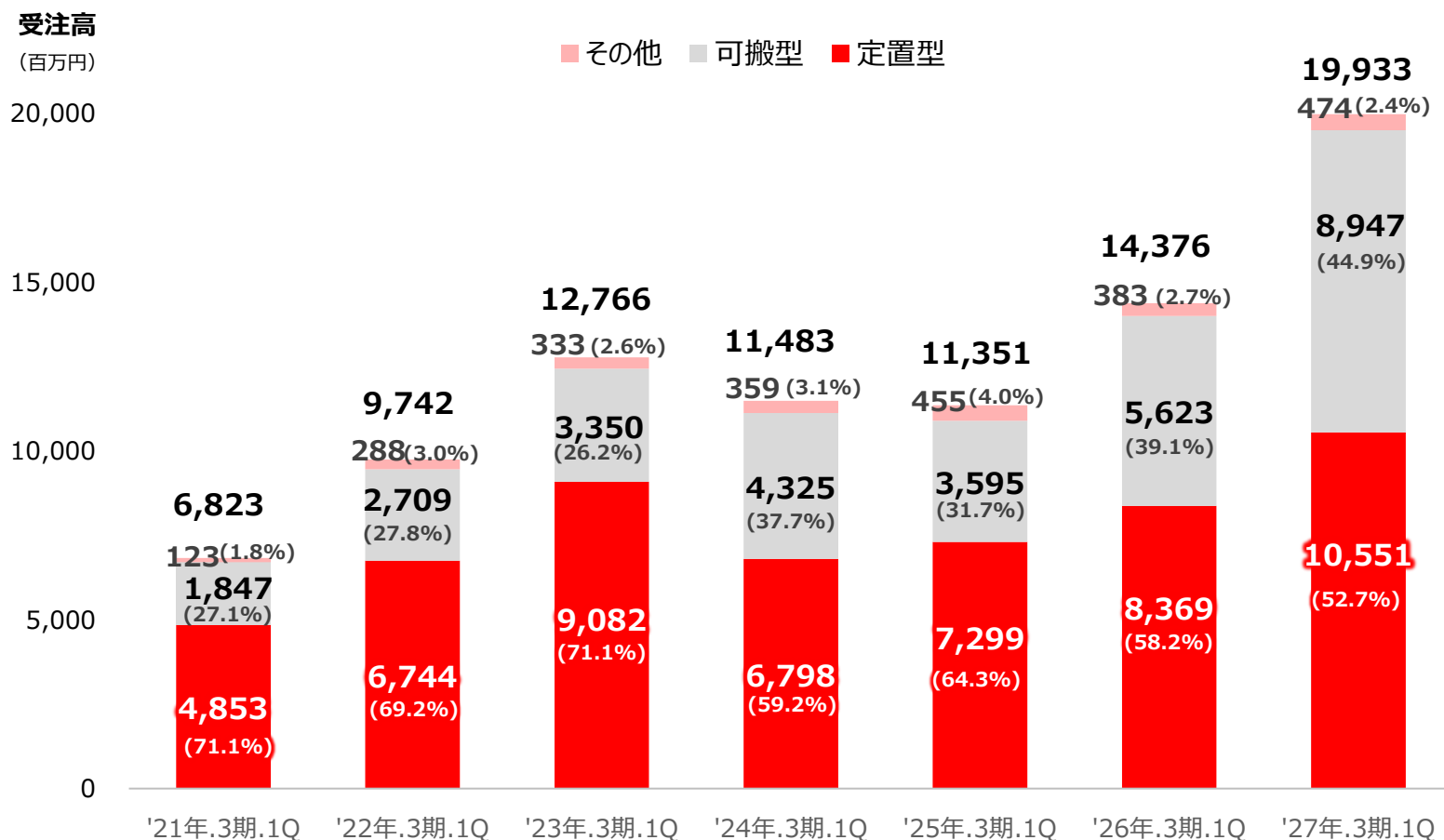
- 定置型検知器は、工事案件は一服したものの、国内のメンテナンス案件の増加によって売上高は微増
- 可搬型検知器は北米地域の幅広い業界および船舶業界向けの販売が寄与したことにより、売上高は増加



※四捨五入のため対売上高比の合計は合致しない場合があります。

機種別受注高の状況（1Q）

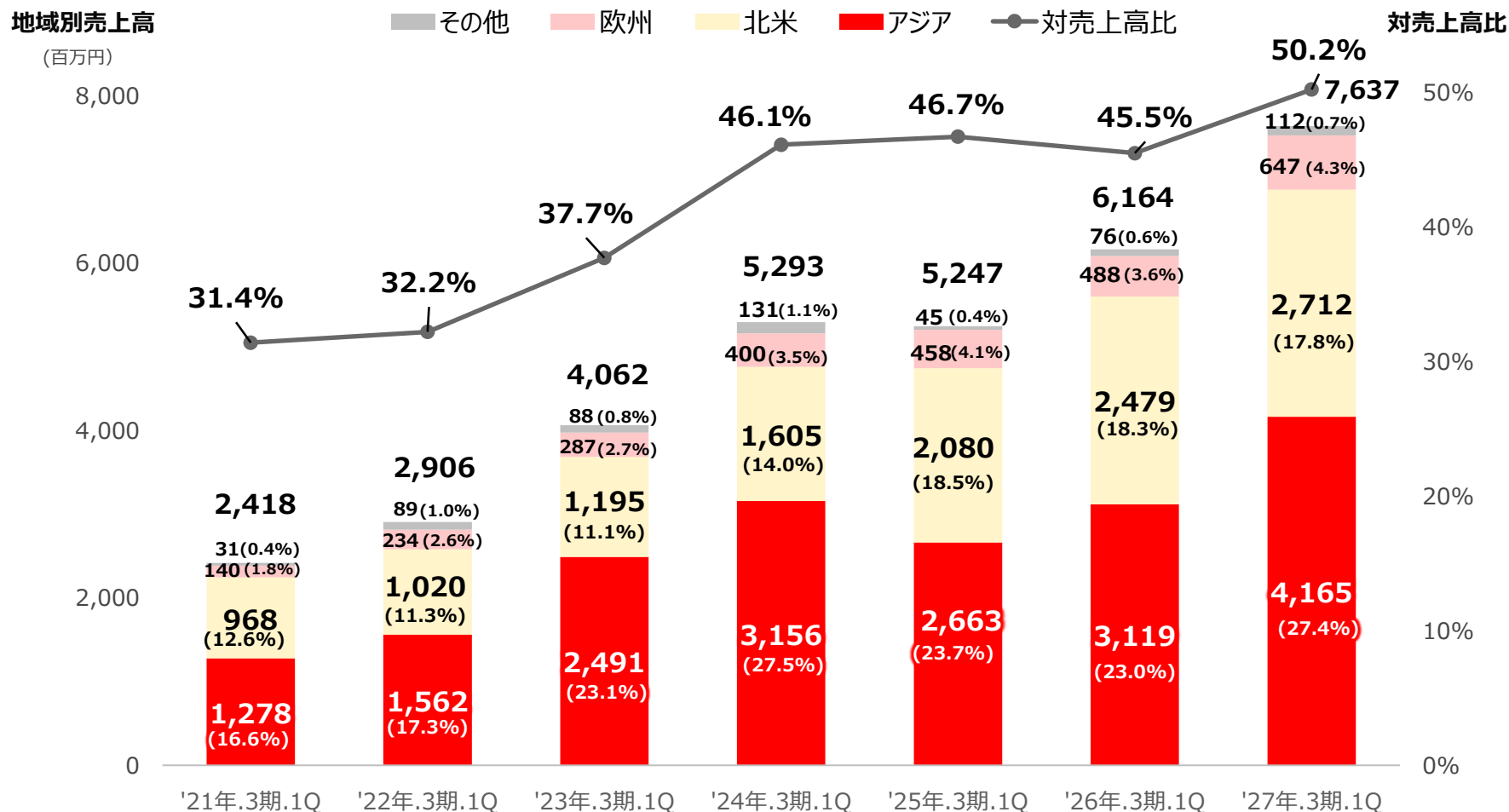
- 定置型検知器は、国内半導体業界における製品およびメンテナンス案件の増加に加え、中国の半導体業界向けが伸長したことにより、受注高が増加
- 可搬型検知器はSOLAS条約の改訂による船舶業界向けの増加により受注高は大幅に増加



※四捨五入のため対受注高比の合計は合致しない場合があります。

海外地域別売上高の状況 (1Q)

- アジア地域は中国および台湾における半導体業界向けの販売が増加し、売上高は増加
- 北米地域は可搬型検知器が幅広い業界向けで販売増加し、前年同期比で売上高が増加



※四捨五入のため対売上高比の合計は合致しない場合があります。

※2026年3月期第4四半期より、地域別売上高の集計方法を変更しております。なお、本変更により、地域別売上高の内訳は従来と比較して変動しておりますので、ご注意ください。

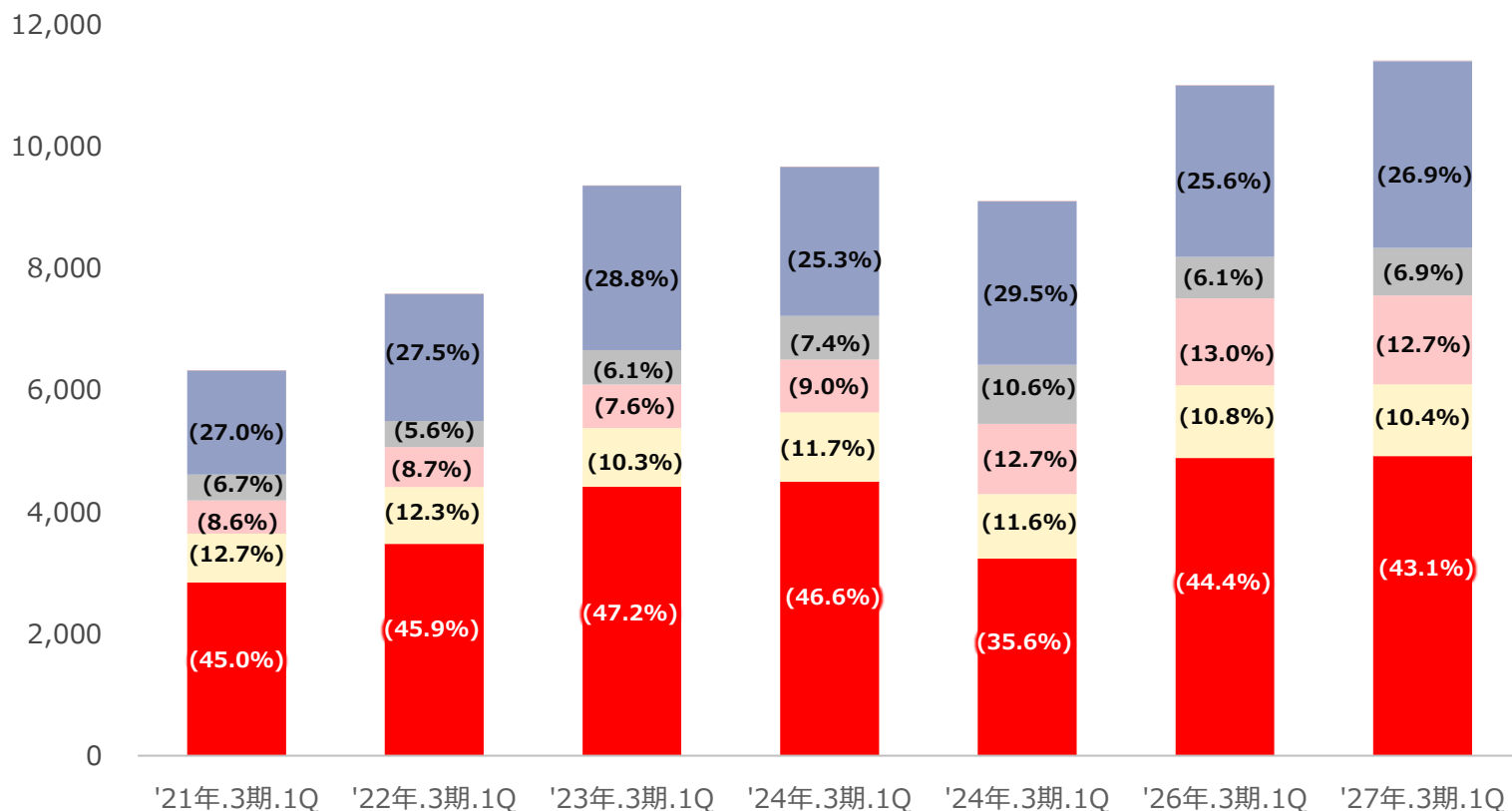
業界別販売の状況（単体・1Q）

- 金額ベースで微増しているものの各業界の販売比率は前年同等水準で推移

業界別売上高

（百万円）

■ その他（官公庁・鉄鋼・自動車・電力・建設など多種） ■ 船舶 ■ ガス ■ 石油化学 ■ 電気・半導体



※四捨五入のため対売上高比の合計は合致しない場合があります。

製品・メンテナンス売上比率推移（単体・四半期）

- 半導体業界業界向けを中心に製品売上高が増加
- 国内のメンテナンス案件も増加したが、メンテナンス比率としては横ばい

